



# 麻布幼稚園だより 9月号

平成29年9月1日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

## 『やさしく、ていねいに』

園長 大島 美知代

健康に、楽しい夏休みを過ごされましたか。年長組は幼稚園時代最後の夏休み、勉強、宿題、水泳教室等もない、唯一のお休みでしたね。きっと楽しまれたことと思います。

終業式で私は4つのお願いをしました。

- 1つ 交通事故や事件などに合わないよう、気を付けて過ごしましょう。
- 2つ 夏休み、好き嫌いをしないでいろいろな食物を食べて元気でいましょう。
- 3つ 早寝・早起きなどをして、生活リズムを崩さないようにしましょう。
- 4つ 長いお休みなので、おうちでお手伝いをしてください。(順不同) これは、  
○自分で安全に気を配り、安全に気を付け、自分の身は自分で守れるようにしてほしい  
○自分の体を大切に、好き嫌いをなくして、自分の食生活を大切にほしい  
○「早寝・早起き・朝ごはん・(朝うんち)」などよい生活習慣を継続してこれからの人生を健康に過ごせる習慣を幼児期に身に付けてほしい

○お手伝いを通してボランティア精神の培い、自分のやる事が家庭、地域の役に立つこと、地域にも貢献することの大切さを幼児期に感じてほしい これらの願いからです。『たかが幼児期』だとは私は思いません。幼児期は人としてスタートする時期、人生の最初の一步、就学に向けて様々な心情、意欲、態度を育成する大切な時期だからです。

平成29年3月31日に「幼稚園教育要領」という法律が改訂、告示されました。今回の改定では横(他の保育施設)と縦(次の教育施設)のつながりが収まるように考えられており、学校教育の中で「幼稚園教育」をしっかり位置づけるための改訂です。新幼稚園教育要領の改定のポイントは「幼稚園教育において育みたい資質・能力」、「小学校教育との円滑な接続」の明確化、現代的な諸課題(たとえば預かり保育や子育て支援等)を踏まえての教育内容の見直しの3つとなっています。ただ、改訂前と改定後も変わらないこと、それは幼稚園教育は「環境を通した教育」であるということです。

夏季休業中に私が一番心に残ったことを紹介します。研修会で講師の先生から「どんな教育でも一番大切なのは『やさしく、ていねいに』だと考えている」という言葉です。人生のスタートとして様々な資質・能力を育む時期、それに係わる環境としての大人の対応が幼児期のすべてだと思います。『やさしく』とは甘やかすことや言いたくない気分の日は言わない、親子だからきつい言葉で言っても通じる、ではなく、相手が分かるよう説明し、相手のことを考えて対応することだと思います。相手のこと、相手の将来のことを思うから「やさしく」対応すること。そして『ていねいに』とは相手は幼児でも丁寧な対応をしなければいけない、やはりていねいな接し方を常にどんな場合も心掛ける、というのが大切だ、ということでした。

私たち教職員は今までより『やさしく、ていねいに』を心掛けていきます。保護者も一緒に、大切な幼児期を『やさしく、ていねいに』に対応していきましょう。